

復興構想会議 御中

4000万本の木を植えた植物生態学者 宮脇 昭 緊急提言

## 津波からいのちを護る「森の長城」プロジェクト

瓦礫を生かす。 いのちをまもる。 力を合わせて築く。 未来へのモニュメント

2011・4・28

企画協力：株式会社アイデアオフィス

宮脇昭緊急提言： 「今こそ瓦礫の山から、未来へ伝えるいのちの森を」

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災では、海岸線を縁取る緑の松林が根こそぎ倒れ、津波と共に宅地を襲い、多くのいのちと暮らしを奪った。潜在自然植生に基づく、いのちを護るふるさとの樹木によるふるさとの森作りを提唱し、国内外 1400ヶ所 4000万本もの植樹を行った植物生態学者として現地の残存植生を調査した。その上で、次の百年千年後の未来に再び襲う自然の猛威に向い、いのちと暮らしを護り、地域経済と共生する最も確実ないのちの森づくりを提案する。『瓦礫は貴重な地球資源。それを基盤に、全国民参加で土地本来の幼木を植え、海岸線沿岸に 10-20 年で多彩な機能を備える防災・環境保全林を形成し、次の氷河期まで持続するエコロジカルなふるさとの森を作り、その方法と成果を広く世界へと発信する。』。これこそ尊い犠牲を教訓とし、全国民が鎮魂と新たな未来を切り開くために、今すぐ取り組むべきプロジェクトである。

## \* P O I N T \*

### ■ 1 ■ 瓦礫は貴重な地球資源。新しいエコロジカルな役割で活用

総量 3000 万 t ともいわれる瓦礫処理には、3500 億円超の膨大なコストと CO2 が発生するが

この瓦礫はエコロジカルには貴重な地球資源である。土と混ぜ、通気性の良いマウンド(土塁)を築く。

次に土地本来の樹種＝潜在自然植生の主木群を選択し、根群の充満した幼苗(ポット苗)を混植・密植する。こうした瓦礫を積極的に利用した都市林の形成は第二次大戦後のドイツなどで実績が見られる。

土地本来の深根性、直根性の常緑広葉樹では、根が土中に深く入り、瓦礫を抱くことで強固になる。また瓦礫内の空気は、根群の発達に最重要で、地中深くへと発達を促す(エアレーション)。有機性廃棄物は土と混ぜることで時間をかけ分解され樹木の養分となり、発達をより確実にする。10—20 年で、多層群落の防災・環境保全林が完成し、個体は交代しながら「持続可能な森のシステム」として次の大氷河期まで続く。成長後の老木は慎重に択伐して、家具・建築・建設材に利用し、地域経済と共生する。

## ■2■

地震プレートに添って構築される強固な緑の堤防「森の長城」。  
多層群落の森は、津波エネルギーを波砕効果で減殺し、水位を  
低下させ、引き波ではフェンスとして海への人命の流失を防ぐ。

高木(約25m)亜高木(約15m)低木(約5m)マント群落(裾)の幼苗(ポット苗)によってエコロジカルに進められた植樹は、短期間で確実に多層群落の森を形成することが、国内外1400ヶ所、4000万本の植樹成果で証明されている。特にローカルには海岸線における多層群落の森は、防災林・環境保全林として大津波や台風・季節風などから市民のいのちと暮らしを護る。コンクリートや鉄などの人工物は波のエネルギーを倍加させるが、森では波を波砕し、逃げる時間を稼ぐ。グローバルには生物多様性を維持しながら、カーボンを吸収固定し、地球温暖化抑制機能を持つ。(※樹木の幹・枝葉・根群などでは、乾燥総重量のおよそ50%のカーボンを吸収している) 3企画協力:株アイデアオフィス

### ■3■

国民運動としての未来志向のふるさとの森づくり。国内外からの参加で世界が注目する緑の9000年続く、いのちのモニュメント「森の長城」を築く。潜在自然植生に基づいたエコロジカルな森はCO2削減・生物多様性・教育・憩い・観光資源として新しい産業に。択伐した老木は経済林として利用可能で、建材・家具・製品など様々なかたちで地域経済と共生する。

国および市町村地域プロジェクトの国民参加運動でひとりひとりがふるさとの森づくりに参加。一体感を育む全員参加の新しいふるさと作り、国土愛の意識の育成、ECO教育、防災意識育成などをコンセプトに、大人から子供まで、様々な職業、世代を超えて、国民が一体となった森づくりの多様な効果は計り知れない。また多くの支援を受けた世界各国の方々との連帯感や感謝を表す場として位置づけ、復興に向う新たな日本の未来志向のビジョンと歩みを示す『モデルプロジェクト』として、世界へ力強く発信する。